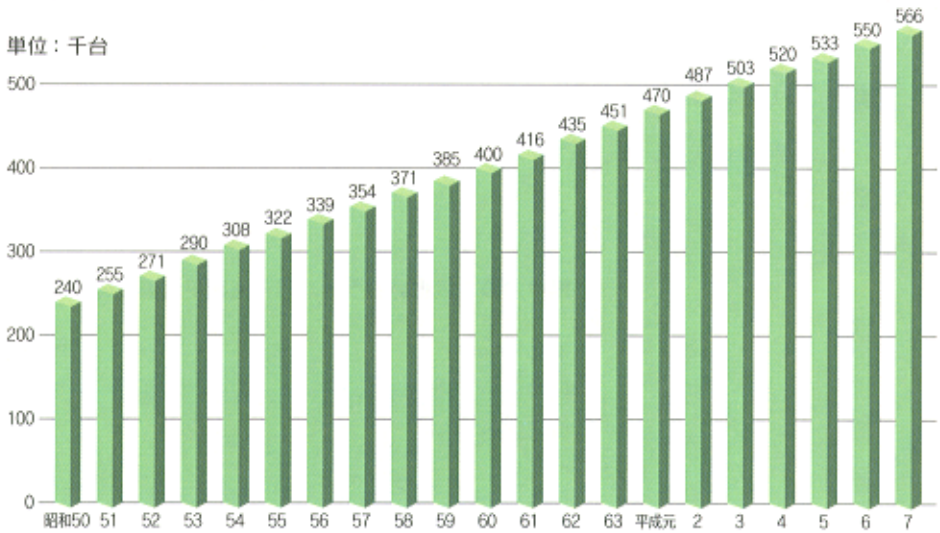
(2) 自動車

自動車排出ガスによる大気汚染への影響は、今のところ、二酸化窒素でみても、環境基準内ですが、その濃度が道路周辺では一般環境の2倍以上となっている現状からみると、現在の自動車利用の伸びが今後も続けば、将来の大気環境については十分な注意が必要です。

さらに、ディーゼル車などの排出ガスには、ベンゾ(a)ピレン*1と呼ばれる発がん性物質が含まれており、今後の課題と考えられます。

■県内の自動車台数の推移



（資料：中部運輸局福井陸運支局））

2　水環境

(1) 公共用水域*2

県では、109地点（河川56、湖沼17、海域36）で水質の常時監視を実施しており、その結果は、次のとおりです。

①河川では、「健康項目」については、すべての地点で環境基準を達成しています。しかし、都市部を流れる一部の中小河川においては、水量が少ないことや当該流域での宅地開発等により、汚濁指標であるBOD*3でみると、生活排水による水質汚濁が認められます。

②北潟湖や三方五湖では、水の循環が悪く、流入する窒素や燐が滞留することによって富栄養化が進行し、その結果水質が悪化しており、汚濁指標であるCOD*4や窒素、燐の環境基準達成率は低い状況で推移しています。

(*1) ベンゾ(a)ピレン：きわめて強い発がん性を有する物質で、ものの燃焼に伴って発生することが多い。3,4-ベンツピレンとも言う。
(*2) 公共用水域：河川、湖沼、沿岸海域などの水域
(*3) BOD（生物化学的酸素要求量）：魚などが生息するのに必要な水中の溶存酸素を消費してしまう有機物の含有量を酸素量に換算したもの。数値が大きいほど、水質汚濁が進行している。
(*4) COD（化学的酸素要求量）：BODの定義に類似した水質汚濁の指標であり、化学的酸化法によって測定される水中の有機物質量を酸素量に換算したもの、湖沼や海域の水質に適用される。